

<全体分析>

試験時間

120分

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

従来通りの出題形式である。試験時間から考えると、記述量は非常に多い。

その他トピックス

自由英作文の指定語数はどうやら「80語程度」で定着しそうである。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I (A)	英文解釈 (89 words)	人間のエネルギー源	当大学の設問としては「平易」である。ポイントとなるのは a tenth / the rest / no longer / now that の意味を正確に訳文に反映させることだろうが、いずれも英語学習の基本段階で習得すべきアイテムである。下線部第2文の訳文構成としては、まず主節の訳文を示した後に although 節の訳文を示す方が断然スムーズである。	易
I (B)	英文解釈 (91 words)	創造性への評価 — 時代によって変わることと変わらないこと	下線部第1文の and 以下は、意味は把握できてもそれを的確な日本語に落とし込むのに苦労する。直訳ではかなり読みづらい日本文になってしまうことだろう。この「的確な日本語訳が困難」という事態はここ数年の大問Iでは常態化している印象がある。	標準
II	読解総合 (1247 words)	頭の中のホームズ — 物語を創り上げる脳について—	昨年度同様、下線部和訳問題3題、説明問題3題という構成で、すべての設問が記述式であった。設問(1)の下線部では、言い換えや not so much A as B の構造を正しく把握することがポイント。brilliance や conventionality の訳では差が出るだろう。設問(2)は this の内容を明示するわけではないことに注意。第5段落 (Take the ... heart attack.) の内容を中心にまとめることになるが、100字以内で必要な情報をすべて盛り込むのに苦労した受験生も多いだろう。設問(3)は下線部の直前の内容をまとめる。設問(4)の下線部は、平易な構造であるものの、intrigue や plot, 自動詞の pay や coherent などの語彙知識の有無で大きく差が出る。設問(5)は、該当部分の英文を咀嚼して日本語化する必要がある。設問(6)の下線部和訳に関しては、serve as A や building blocks といった表現の処理と、本文全体の趣旨から最終文の内容を正しく理解できたかどうかのカギ。	標準
III	自由英作文	効率化・高速化の 追求の是非	昨年に引き続き 80語程度という語数指定。「具体的に利点もしくは問題点を1つ挙げて」という条件を守ると是非かの立場を表明することになるため、結果的に「二者択一型」の設問ということになる。効率化の追求を是とする立場を取れば解答は比較的容易に展開できるが、非とする立場を取ると「場合によっては非」とい	標準

			う論にならざるを得ず、強い説得力を持たせるのに苦労するだろう。効率化を全面的に否定することは常識的に考えて不可能であろうから。	
IV	英作文	人物の評価基準が人間性よりも外形的な情報となった日本の現状	筆者の言わんとするところはわかりやすいが、個々の表現については直訳では意味不明になる箇所が多く、適切に読み換える力が求められるほか、主語の選択にも心を砕く必要があった。下線部(1)の『一言を重んじる』は文章全体から筆者が言いたいことを推し量った上で「(自分の)言葉に責任を持つ」のように読み換えたい。「風儀」は「習慣」と同義で custom を使って表せるが、読み換えによる表現も可能であろう。下線部(2)では『人を見る目』『外形的な情報』『目の前の人の正味の人間としてのありよう』などが読み換えを必要とする。下線部(3)は「…が支配的」「『エビデンス』『イデオロギー』」の処理が一見難しそうだが、基本的な文法・語法力があれば筆者の真意を読み取り適宜読み換えを行うことで対応出来るだろう。	標準
V	リスニング (693 words)	消滅危機言語について	前年より約 150 words 増加。解答の該当箇所となる部分は比較的分かりやすかったが(3)・(4)は解答文をまとめるのがやや難しい。(5)は設問文「具体的に」という表現を手がかりにして該当箇所を絞れるかがポイント。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本的には外国語学部以外の学習対策と同じなので、外国語学部以外の分析シートの<学習対策>も参考にしてもらいたい。長文読解対策としては、まずは、一文一文を吟味しながら読み進めるという基本的姿勢をしっかり獲得すること。そしてその延長線上にこそ、パラグラフごとの論旨を大きくつかむ、いわゆる速読的作業があるのだと心得てほしい。ここに至るには長期に渡る準備が必要なことは言うまでもない。英作文のレベル・傾向は外国語学部以外と同じと考えてよい。こちらもかなりの期間に渡る準備が必要となる。聞き取り問題はすべて記述式なので、英語を聞き取る能力だけでなく、聞き取った情報を迅速に適切な日本語にまとめる能力も重要である。